平成31年度（2019年度） 学校評価総括表　伊丹市立東中学校

教育目標	自主・自立の精神や豊かな表現力を持つ思いやりのある生徒の育成
重点目標	東中しぐさ（心）の確立　→　和文化と心の融合

項目		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校運営協議会
学力の向上	基礎・基本の徹底 確かな学力の向上	①基礎的、基本的な知識・技能を習得する ②定期テストの結果を分析し、効果的な学力向上策の実施する	①各教科で小テストを行い、適切に評価すること で学習意欲を高める。 ②弱点項目(30%以下)について、質問しやすい声掛けや環境づくりをする。	①小テストなどの評価で適切に評価されているという回答が80%以上になる。 ②弱点項目の内容などに対する質問がしやすいという回答が65%以上になる。	B	関連するアンケート項目については、生徒は去年に比べて増加して91．2%となり、保護者は86．5%となった。「先生に質問しやすい」という項目については、60%をきり、目標を達成できていない。授業中に質問の時間を作っても、質問しにくい生徒は変わらない模様。どのように対策をすれば質問がしやすくなるかを考えていくことが必要である。	「学習の成果を適切に評価してくれる」については、基礎・基本の徹底を行うために、小テスト・宿題、実技を行わせ、引き続き声かけなどを行い、できていない箇所を丁寧に説明することを継続していきたい。また、問題等でできていないところを授業やテスト返却の際に、より意識して明確にしていく。さらに、シラバスを活用し、生徒・保護者に対して、各教科の評価の仕方について周知徹底を行っていく。「先生に質問しにくい」については、業間では、授業内容について先生に質問する時間の確保が難しいため、別の枠で生徒が先生に分からない事を質問する時間をつくる（テスト1週間前の放課後学習）ことに加え、質問しにくい生徒が質問できる環境を設ける工夫が必要である。	・基礎基本の定着と課題学習への対応のための授業改善を推進していく。 ・生徒のできていない箇所を確認・点検し「学びに向かう力」を育成していく必要がある。 ・授業における質問しやすい雰囲気や環境作りの工夫がさらに求められる。
	学習習慣の定着 読書活動の推進	①家庭学習を充実させる ②朝読書を通して読書活動を充実させる	①1日2時間の家庭学習を達成させる ②全員が集中して10分間の朝読書を行うよう指導する。	①「家庭学習のための宿題が適切に出されている。」という回答が、保護者、生徒ともに80%以上になる。 ②朝読書の充実のため、ライブラリーサポートによる移動図書だけでなく、学級貸出を充実させ図書館利用増加へつなげる。	B	①「家庭学習のための宿題が適切に出されている。」と回答している生徒は82．1%と目標は達成できているが、「ややそう思う」の割合が45．7%をしめている。また、保護者は61%と前年度と比べ8ポイント下がっている。他学年、他教科の課題の出し方が不透明、その課題を出す「ねらい」がはっきりしていないなどの意見があがった。 ②読書活動の推進では学校全体での朝読書の取り組み、図書館司書やライブラリーサポートとの連携から、学校の読書活動に肯定的な意見を持つ生徒・保護者は85%以上を超え今年度も一定の成果をあげている。しかし、図書館の使いやすさと利用頻度については、前年度より1．6ポイント下がっており、図書館の場所的な不利が浮き彫りとなった。	①家庭学習の充実ひいては基礎学力向上のため、東中生につけさせたい力を教科別、学年別で年度当初に検討し、計画的に課題を出す。 ②朝読書については以後も継続して指導していく。読書活動推進のため、図書委員による学級貸し出しのオススメ本の紹介、図書委員主体の図書館まつりの充実、図書館便りの活用など、東中図書館の情報をさらに発信していく。	・学力は生徒の財産となる。家庭学習を定着させるための家庭との連携、平日課題・休日課題等の工夫・改善を今後も継続して行って欲しい。 ・「しっとこ東中」は今後も継続して改善を重ねながら、よりわかりやすい冊子づくりに努めて欲しい。 ・読書活動においては、生徒会図書委員会・学校司書・ライブラリーサポートとのより一層の連携を図り、生徒の図書館利用率の向上に努めて欲しい。
	指導方法の工夫改善 言語活動の充実	①ICT機器を活用した授業改善を行う ②授業における課題発表やスピーチの積極的な取り組み	①電子黒板や実物投影機等を活用した授業改善に努める。 ②各教科において1分間スピーチなど、生徒の発言の場を設定する。	①全教員がICT機器を活用できるようにする。 ②生徒アンケートの回答において、「先生は教え方にいろいろ工夫している」、「授業はわかりやすく楽しい」の割合が85%になる。 ③定期テストで記述問題を含むテストを作成し生徒の考えを引き出す工夫に努める。	C	①教職員アンケートで「ICT機器の活用を含んだ教材研究を十分行い、「よく分かる授業づくり」を実践している」と回答した教職員では、昨年に比べ減少し、8割弱になってしまった。②生徒アンケートにおいて「先生は教え方にいろいろ工夫している」割合が約87%であり目標を達成している。一方「授業はわかりやすく楽しい」と回答した生徒は約70%である。また、教職員アンケートの「授業研究を通じて授業方法について検討している」の回答が昨年度に比べ微増している。 ③教科によっては、生徒の考えを引き出す記述問題をテストで出す。	①授業改善のためのICT活用法についての研修を行う。 ②授業研究を行い、授業方法について検討した上で、教員間で、より授業研究ができるような公開授業を行う。 ③テストのみならず授業の中でアクティブ・ラーニングを通して生徒の言語活動の充実を図る。	・普通教室にICT機器が設置された環境の継続した整備に努め、さらなる有効活用を目指して欲しい。 ・ICT教育の充実を図るため、教員の研修・研鑽を積み、教員間の連携を推進していって欲しい。 ・アクティブラーニングの工夫や毎時間めあてを提示し、生徒につけたい力を明確にしていく授業展開を継続して行って欲しい。
豊かな心・健やかな体	不登校への対応	不登校生徒数を減少させる	不登校生徒を出さないための、伊丹市共通実践事項を実行する。学年の生徒指導の分掌の中で問題行動と不登校対応を分けることで教職員の負担を軽減する。	①不登校生徒数が前年比90%以下を目指す。②生徒アンケートの「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらっている。」と回答する生徒が80%以上になる。	B	「学校に行くのが楽しい」と感じている生徒が76.8%であり、去年と比較して0.6%下回っていた。一方で、「先生は相談にのってくれる」と感じている生徒の数は、73.3%で前年度より1.3%増加している。 課題は、不登校生が昨対比141.1%で、急増傾向にあることである。	積極的な電話連絡、家庭訪問を通して、生徒、保護者との関係づくりを行う。また、放課後登校など個に応じた対応も心がける。その上で、生徒が悩みを相談しやすい人間関係作りを心がけ、「学校が楽しい」と生徒が感じ、安心して生活できる環境作りを目指す。 また、専門機関と連携し、個々にあったアプローチを続けていきたい。	・不登校問題は小学校の段階から増える傾向に有り全国的な課題である。 ・要因は様々で複雑化しており、個に応じた対応、教育相談係会・学年会等の情報共有、家庭との連携強化、そして関係機関と積極的連携を図り、不登校0を目指した学校づくりに向けて地域・保護者・学校が一体となり取り組んで欲しい。
	問題行動への対応	問題行動を起こさせない指導体制を確立する	「みそあじ」を徹底し、問題行動を未然に防ぐ。	「ルールやマナーを教えてもらっている」と回答する生徒が90%以上になる。	B	生徒はルールやマナーについてしっかり教えてもらっていると回答した生徒が80%を今年度も越えており、保護者アンケートによると「学校は自分を大切にすることや、他人への思いやりについて教えている」というのも今年度は80%を上回った。	「みそあじ」を徹底し、ともに生徒一人一人に対するきめ細やかな指導をこころがけることを継続する。そして、学校で徹底することで家庭でも時間や生活習慣について意識して生活できるようにする。また問題行動に対して、組織的な対応をするために、教職員同士の連携を密にする。	・学校の重点目標である「みそあじ」の徹底を継続するとともに、教職員の連携強化、組織的な対応をさらに推進していって欲しい。 ・また、今後も保護者・生徒との信頼関係の構築を図り問題行動の未然防止に努めて欲しい。
	道徳教育の推進	豊かな心を育てる道徳教育の充実をはかる	担任だけでなく全教員の道徳教育の実践力の向上をはかる。	①「自他を大切にすることを教えてもらっている」と回答する生徒、保護者を80%以上にする。 ②各学年ごとに、年1回の公開授業を行う。	B	生徒、保護者ともにアンケートの「自他を大切にすることを教えてもらっている」という項目が昨年度よりも数値が上がった。オープンスクールで道徳の公開授業を行った。特別の教科　道徳の評価の仕方の校内研修を行った。ローテーション授業の取り組み方を評価のために見直す必要がある。	ローテーション授業では今後も継続して資料や指導案を検討する時間を確保するなど内容の充実を図り、授業力向上につなげる。さらに、担任だけでなく全教員で授業記録をとるためにこのローテーション授業をうまく活用していく。評価の仕方の校内研修をさらに充実させる。	・ローテーション授業の定着が図られ、学校全体で取り組めている。 ・今後もいじめ防止に繋がる「心の教育」の充実を図っていって欲しい。
	健やかな体づくりの推進	①健康管理の啓発を行う ②健全な食習慣の推進をはかる	①欠席調査を毎朝行い、感染症の拡大防止に努める。 ②保健だよりを通して、健康管理や健全な食習慣の啓発に努める。 ③保健委員会を中心に健康管理の啓発と食習慣の意識を高め、自己の健康管理を行う。	①集団感染防止の対策を年間通して行う。 ②保健だよりを月1回以上発行する。 ③保健委員会を中心に、給食に関する整備やマナー等、食育の意識を高める。	B	①は、グレードアップ週間を活用し手洗い・うがい等の啓発や、教室の換気を行う取り組みをしている。「風邪調査」の実施も予定している。②は、保健だよりは毎月発行しホームページにも掲載している。保体の授業でも啓発を行い目標を達成することができた。③は、保健委員会を中心に積極的に取り組んでいる。栄養教諭と連携を取り、食に対する取り組みや、食物アレルギー対策の徹底に図る努力をしている。また、給食献立コンテストにも参加し、生徒の食に関する意識が高まった。残食等の課題があるため、継続して生徒・教職員共に食育の充実を図り、その意識を高める。	規則正しい生活習慣に関する生徒の意識が75%より下回っているため、引き続き、保体の授業等や保健だより、保健委員会とも連携を図り「感染症予防」や「健全な生活習慣について」の啓発について取り組む。給食に関する取り組みや食育に関しても、家庭科の授業や保健委員会の生徒を中心に、栄養教諭や保護者と連携を取りすすめていく。例えば、食育の情報発信を充実させるため、毎月発行の保健だよりや給食だよりは、保健委員会の生徒と連携し啓発する。	・生徒会活動の取り組みであるグレードアップ週間や保健授業等を活用し、生徒の意識改革を継続していって欲しい。 ・保健だより、給食だより等の情報発信の啓蒙活動を推進し、給食指導・食育指導の充実、体力向上に向けた取り組みを今後も継続して行って欲しい。 ・新たな残食を減らす取り組みが求められる。
開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	積極的に学校情報を地域、保護者、生徒に発信する	①学校だよりを毎月発行し、学校掲示板に掲載する。 ②学校ホームページを月10件以上更新し、学校情報を積極的に発信する。 ③「しっとこ！東中」を有効的に活用する。 ④保護者メール配信を用いて積極的に情報を発信する。	①学校だよりを毎月発行する。 ②学校のホームページを月10件以上更新する。 ③保護者アンケートにおいて、「学校は保護者の願いに応えている」「学校は学校・学年便りやメール配信、ホームページ等を通じて学校や子どもの様子などをわかりやすく伝えている」の回答が90%以上になる。	B	ホームページは頻繁に更新を行っており、メール配信も警報発令時の休校の情報や学校行事の案内に活用するなど、積極的な情報発信に努めている。保護者アンケートでは、「学校は学校・学年便りやメール配信、ホームページを通じて学校や子どもの様子などをわかりやすく伝えている。」という目標は、肯定的な意見が84.7%であり、達成までもう少しのところである。	学校だよりや学年通信を保護者に渡していない生徒も少なくないと思われるので、ホームページにも掲載することで、より多くの保護者に学校の情報が伝わるように発信していく。また、各通信以外にも学校情報等に関わる掲載を増やしていくとともに、安定した発信に努める。	・情報発信は、保護者・地域との絆づくりでもある。今後も学校ホームページのより見やすい・わかりやすいホームページの作成と定期的な更新に努めて欲しい。 ・保護者・地域に学校への理解を深めるためには、正確で積極的な情報発信を行っていく必要がある。
	学校運営への市民参画の推進	東中ファミリーサポーターズ・PTAとの連携強化をはかる	「サタスタ東」や「図書活動」「スマイル活動」などへの協力を生徒・PTA・地域に呼びかける。	①「サタスタ東」への生徒登録者が150人を超えている。 ②ボランティアスタッフの登録者数が70名を超えている。 ③保護者アンケートで「学校はサタスタ東や図書活動などの取り組みを通して、地域や保護者との連携のもと積極的な教育活動を行っている」と回答した割合が80%以上になる。	B	①の登録生徒数については、今年度115名で目標を下回っている点が課題である。 ②、③については、サタスタ東が毎週の実施となったことや活動の広報等が活発にされ、東中ファミリーサポーターズ等の活動が保護者や生徒に十分周知されている。	①サタスタ東登録者の目標達成のために、参加案内を学期始めや三者懇談時に配付し、年間を通して参加を募る。保護者に対しては引き続き、学校だよりやメール配信などでも直接的に案内を呼びかける工夫をする。 ②図書活動やスマイル活動の活性化のために、メール配信等を行い、スマイル・ライブラリーサポートとの連携を図る。	・コミュニティ・スクール導入から4年が経過した。東中ファミリーサポーターズとの連携をさらに図り、各サポートとの協力体制が課題と思われる。 ・今後も学校活性化に向けた開かれた学校づくりを目指し、保護者・地域を学校に巻き込み、共に学校運営に参画していく意識を向上していくことが大切である。
	安心な学校づくり	避難訓練を徹底し、安全教育の取り組みを行う	学期に1回避難訓練及び安全教育を行う。	学期に1回避難訓練及び安全教育を行うことで、生徒の安全に関する意識を高める。	A	生徒アンケートの肯定的意見は2項目とも80%以上であり、特に「防災訓練」の項目は90%を超えていたため、当該項目の「達成目標」はクリアした。また、教職員アンケートの肯定的意見も2項目とも80%以上であり、特に「緊急時のマニュアルの提示」の項目は90%を超えていた。ただし、保護者アンケートの「学校は交通事故や事故防止のために生徒の安全に関する適切な指導を行っている」の項目の肯定的意見は76.7%であった。今年度は、避難訓練や防災教育（「オリジナル水防マップ」の作成）等を通じて、生徒の危機管理意識を向上したが、「交通事故や事故防止」のための指導が不十分であり、生徒には勿論のこと、保護者にもその内容を伝える工夫が必要である。加えて、救急対応においても、教職員の更なる意識の向上が必要である。	【来年度の具体的施策とリンク】 ①学期に1回避難訓練及び安全教育を行う。 ②教職員による登下校指導の充実を図る。 ③全校集会等で「施設・設備の安全な使用方法」の説明等を行う。 ④交通安全や事故防止等に関わる資料を生徒・保護者に配付する。 【検討事項】 ①夏季休業中に安全・防災に関する教職員研修を行う。 ②家庭環境調査票か緊急連絡票の中に「避難場所」の項目を新たに設け、保護者と生徒が防災に対する意識を高めるきっかけとする。	・学校教育が担うものは多岐にわたるが、今後も教職員の危機管理に対する意識改革を行い、安全・安心な学校づくりに努めていって欲しい。 ・学校安全は生活安全・交通安全・災害安全が3つの柱であり、災害安全以外の部分でも安全教育の充実が求められる。
各学校園で特に取り組みたい課題	キャリア教育の推進	①3年間を見通したキャリア教育を推進する ②小中高連携を推進する ③ボランティア活動を実施する	①キャリア学習ノートを活用した進路指導を行う。 ②小中合同の行事を行う。オープンハイスクールへの参加を呼びかける。 ③東中地域活性隊、夏休みの清掃活動を呼びかける。	①計画的にキャリア学習ノートを活用する。 ②小中の十分な交流をはかる。 ③生徒の「学校は、ボランティア活動を勧めている」・保護者の「学校は、ボランティア活動を生徒に勧めている」の学校評価アンケートの肯定的意見を80%以上にする。	C	進路についての生徒アンケートの肯定的意見は6ポイント程度増加している。しかし、ボランティアについての肯定的意見は2ポイント程度減少している。いずれの項目も約75%と目標である80%には到達していない。1，2年生でのキャリア学習を進路とからえていない生徒が多くいることや、学校としてボランティアという言葉を使った取り組みをしていないので、進路学習やボラティア活動という言葉を用いた取り組みを増やせるかが課題である。	1,2年で進路という言葉を使う場面を増やしたい。たとえばキャリア学習ノートを使った取り組みや、トライやるでの取り組みはすべて進路に関することであるという意識付けをおこなう。またボランティアにおいても部活動での清掃や、地域活性隊をおこなう場合にもボランティア活動であるということを意識させるようにしたい。ボランティア活動においては道徳の教材などで取り扱うことで意識を向上させる。	・キャリア教育における課題対応能力・キャリアプランニング能力の育成が生きる力に繋がる。 ・進路指導を1年生段階から計画的に行い、3年後、10年後を見通した指導計画が必要である。 ・今取り組んでいることがキャリア教育やボランティア活動へ繋がっていることの生徒への意識づけが大切である。
	特別支援教育の推進	①個別の指導計画を作成する ②校内委員会を開催する	①教科担当・支援員・特別支援学級担任・及び介助員の意見を校内委員会に上げ、協議し、職員への周知し個別にアセスメントシートを作成する。 ②校内委員会は、時間割ないでの週1回の開催を原則する。必要に応じて随時ケース会議を開催する。	職員用アンケートで「校内委員会の内容に基づき、コーディネーター、支援員の連携がはかれている」の肯定的回答が90%以上になる。	A	①特別支援学級生徒への個別の対応や、臨機応変の対応などができる体制がしっかりできていた。 ②事前に小学校と新入生の情報交換や打ち合わせができていたので、大きな問題はなかった。 ③年間を通してケース会議を行うことができた。SCなど関係機関と情報共有もできた。校内委員会の実施回数も増え、転籍や巡回相談などへの対応が迅速にできた。 ④急な生徒変化に特別支援的な対応や、合理的な配慮に対応できる場面が増えた。	①合理的配慮や個別の指導計画・支援計画等、時代のニーズに即した研修を取り入れる。 ②特別支援学級主任や特別支援教育コーディネーターの複数配置による、きめ細やかな対応。 ③今後はどのような立場で、どのメンバーが会議に参加すべきなのかなどを精選して、支援会議の質をさらに上げていく。 ④特別支援的な対応や合理的な配慮の事例を記録として残し、今後の指導に役立てる。	・合理的配慮について、教職員の意識改革、研修体制の確立が大切であり、さらに個別の指導計画等を活用し生徒支援に繋げていって欲しい。 ・今後も関係機関との連携をさらに図り、教育支援会議やケース会議を必要に応じて行い、支援体制の充実を目指していって欲しい。
	子どもたちの一人ひとりの個性や能力に応じた教育の推進	①Q－Uを活用したバランスのとれた集団づくりを行う。 ②学級・学年でのリーダー育成を行う ③礼儀と規律ある部活動の推進をはかる	①年2回Q－Uを実施し、学級の現状を把握する。 リーダー研修会や専門委員会を定期的に行う。 ③定期的に部活動集会を実施する。	①全クラスについて、学年全体でQ-U結果向上のための意見交換を行っている。 ②夏期休業にリーダー研修会を実施し、リーダー育成を推進する。月1回専門委員会を行っている。 ③定期的に部活動集会を実施し、各部活動での意識を高める。	B	年2回Q-Uを実施し、学年で分析し共有できたが、全教員が活用できていない。 部活動集会や各部活動を通して、8割以上の生徒が礼儀や規律が身についたと感じているが、よりきめ細かな指導のための時間の確保が課題である。	カウンセリング対象生徒を中心に、担任・副担任問わず、向き合う時間を増やしたり関わり方の工夫をする。 生徒自身が主体的により良い学校づくりができるよう、専門委員会の運営方法や、グレードアップ週間の内容について、生徒会が中心となって考える。 リーダーや支援を要する生徒だけでなく、個々の生徒に関わる時間を作り、個に応じたよりきめ細かな指導を心がけ、生徒の心に寄りそった教	・生徒と向き合う時間の確保、関わり方の工夫が今後も大きな課題と思われる。 ・Q－Uにおける検証・分析結果を今後も活かし、生徒一人ひとりに対応した「心の教育」の充実に努めて欲しい。 ・個に応じたよりきめ細かな指導を心がけ、生徒の心によりそった教育の推進を今後も図ってもらいたい。
	安全で快適な学校園施設の整備	①無言清掃を徹底する ②情報教育機器の整備を拡充する ③教育環境の整備を行う	①徹底した無言清掃を行う。 ②備品管理を徹底させる。 ③図書館、武道場の有効利用を行う。	①「学校が生活の場として、清潔で美しく整っている」の回答が80%以上になる。 ②③「図書館やコンピューター室が使いやすくよく利用している」の回答が80%になる。	B	図書館については給食により利用しやすい時間が減っているが、移動図書や、学級文庫など、図書館内だけではない取り組みが積極的に行われている。生徒の「清潔で美しく整っている」についての肯定的な回答は、80%を下回った。	図書館利用についての再認識をはかるために、移動図書や学級文庫の利用も含めた質問項目に変更して、数値をとる。無言清掃だけでなく、日々の整理整頓を徹底し、与えられた仕事以外のことにも目を向けられるように活動させる。	・立腰教育・無言清掃を今後も教育活動に生かし学校の活性化を図っていくことが大切である。 ・図書館利用率の向上を目指して欲しい。

学校運営協議会評価総括	知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成を図り、地域・保護者・生徒に愛される学校づくりを目指していく。
次年度に向けた重点的な改善点	不登校生徒へのきめ細やかな対応、さらなる学力の向上を図っていく。

自己評価の基準　A：目標を上回った　B：目標どおりに達成できた　C：目標をやや下回った　D：目標を大きく下回った